

21世紀の
コンサート・スピリチュエル

音楽の力

コンサート・シリーズ

- 第3回公演 -

時に優しく、時にエモーショナル、新時代のヨーロッパ・ジャズがここに
フランス映画のような、美しくも繊細な21世紀のジャズ・サウンド

ヒルサイドで「パリの響き」を聴く



GIOVANNI MIRABASSI TRIO
feat. SARAH LANCMAN
feat. サラ・ランクマン

ジョバンニ・ミラバッシ・トリオ

ジョバンニ・ミラバッシ — Piano

ジャンルカ・レンツイ — Bass

ジーン・ジャクソン — Drums

サラ・ランクマン — Vocal

Inspiring Love

~アルバム『Inspiring Love』より

À contretemps

On s'est aimés (愛し合ったことを)

~アルバム『A CONTRETEMPS』より

Autumn Leaves (枯葉)

君をのせて (『天空の城ラピュタ』より)

~アルバム『ANIMESSI』より

※演奏曲目、曲順は変更となることがございます。あらかじめご了承下さい。

ほか

2018

2.25.SUN

13:30 開場

14:00 開演

代官山ヒルサイドプラザホール

東京都渋谷区猿楽町29-10 ヒルサイドテラス (東急東横線代官山駅から徒歩3分)

料金

[全席自由/税込] 5,500円

(休憩時、ドリンク提供あり/ワンドリンク代込み)

クラブヒルサイド会員 5,000円

(クラブヒルサイド事務局 03-5489-1267のみ取り扱い)

※就学前児童の入場はご遠慮下さい

取扱い・お問合せ

ヴォートル・チケットセンター

TEL: 03-5355-1280 <http://ticket.votre.co.jp/>

チケットぴあ

TEL: 0570-02-9999 <http://t.pia.jp/>

《Pコード: 100-098》

主催: オザワ・アート・プランニング合同会社

協力: クラブヒルサイド

哀愁とセンチメンタリズム溢れるピアノ・サウンドが定評の、 孤高の天才ピアニスト、ジョバンニ・ミラバッシがヒルサイドプラザに登場！

ブルーノート東京での伝説のライブアルバムが多くの賞に輝くなど、日本でも人気絶大なジャズ・ピアニスト、ジョバンニ・ミラバッシ。今回の来日公演は、彼自身が発掘、プロデュースした2012年のモントルー・ジャズ・フェスティバル・シニア国際ジャズ・ヴォーカル・コンクール優勝の女流ヴォーカリスト、サラ・ランクマンをフィーチャーし、叙情的で美しいメロディー満載の21世紀ヨーロッパ・ジャズのいまを披露します。



ジョバンニ・ミラバッシ Giovanni MIRABASSI — Piano

イタリア・ペルージャの生まれて、現在、パリ・モンマルトルに居を構え世界を股に音楽活動を展開している、ヨーロッパのジャズ・シーンを代表するピアニスト。3歳よりピアノを始め、10歳の頃にジャズと出会い、独学で勉強を始めた。17歳のときには伝説的トランペッター＆シンガーのチェット・ベイカーと共演を果たした。1992年にパリに移住、96年のアヴィニオン・フェスティバルで大賞を受賞した。その後、「Victoire du Jazz」、「ジャンゴ・ラインハルト賞」などフランスの主たるジャズ賞を総なめしている。イタリア出身の世界的なジャズ・ピアニスト、エンリコ・ピエラマンツィを敬愛し、クラシック・ピアノ界の巨匠、アルド・チッコリーニにピアノの手ほどきを受けた彼は、2001年に世界各国で民衆に歌い継がれている反戦歌、革命歌をソロ・ピアノで演奏したアルバム「AVANTI!」(澤野工房)で一躍その名を日本のジャズ・ファンに浸透させた。このアルバムは、こよなく自由を愛するミラバッシの心の叫びとなって、ジャズ・アルバム、それもピアノ・ソロの作品としては異例の日欧で10万枚のセールスをあげるヒット・アルバムとなった。2010年にはその第二弾とも言える「Adelante」を発表、そこには「リリー・マルレーン」、「モスクワ郊外の夜は老けて」、「インターナショナル」といった日本でも馴染みの楽曲が収録されていた。新作「アニメーション〜天空の城ラピュタ ほか〜」(日本コロムビア)では日本のアニメ・ソングをリリカルに演奏し、さらにファン層を広げた。ビル・エヴァンスやエンリコ・ピエラマンツィへの敬愛を胸に、独自のピアノ・ミュージックに取り組み続ける彼の最新ステージは常に限りない期待を持たせる。



ジーン・ジャクソン Gene JACKSON — Drums

米フィラデルフィアの生まれ。ドラマーになるべく、1979年にボストンのパークリー音楽大学に入学。ジェフ・ティン・ワッツとレノラ・ヘルムスの推薦で、ケヴィン・ユーバックスのバンドに参加、87年、ニューヨークに移り、ケヴィンとの活動を続けながらプロとしてのキャリアを積み重ねていった。88年頃から自己名義の活動を開始、ジャズ・フェスティバル、ツアー、レコーディングなど、数多くのプロジェクトに携わる。91年からはテリ・リン・キャリントンの推薦で、ハービー・ハンコック〜ウェイン・ショーター・カルテットに参加、93年から2000年まで、ハービー・ハンコック・トリオ、カルテットに在籍し、その名が全世界に知れ渡る存在となった。演奏活動の他、ニューヨークの「クイーンズ・カレッジ・アーロン・コーブランド・スクール・オブ・ミュージック」や各国でのクリニック、ワークショップ等での教育活動にも力を注いで来た。大変な親日家で、近年は度々日本を訪れ、音楽学校での指導にあたるほか、日本のミュージシャンとのライブ活動も積極的に行うなど、日本全国において多くのファンを獲得している。



サラ・ランクマン Sarah LANCMAN — Vocal

「彼女こそ、ジャズ界に現れた真の新しい歌声である」(クインシー・ジョーンズ)これは、サラ・ランクマンが2012年のモントルー・ジャズ・フェスティバルで行われた国際コンペティションで第1位を獲得した時にクインシー・ジョーンズが語った言葉である。ピアニストであり、作曲家であり、そして、歌手という多くの才能に恵まれたサラは、まさしく、新世代を代表する歌手の一人である。7歳の時にピアノを始めた彼女は、最初はクラシックのトレーニングを、そして、ジャズのトレーニングをパリの音楽院で受けた。編曲、作曲方面に強い関心を持ち、「Haute Ecole de Musique」ローザンヌ校のジャズ科でピアノ及びヴォーカルを専攻した。以降、数多くのジャズ・フェスティバルへの出演、ジャズ・クラブへの出演することでキャリアを重ねていった。活動の地域はフランス、スイスのみならず、トルコをはじめとする多くの国に広がっていった。2015年、初のアルバム「DARC」(Blew Records Music)を発表、多くのメディアから高い評価を受けた。その直後に、ジャンゴ・ラインハルト賞、フランス音楽大賞など多くの受賞歴を誇るピアニスト、ジョバンニ・ミラバッシとの出会いが、彼女の方向を決定づけた。ミラバッシは彼女の歌声を「私が長い間捜し求めていたものであり、それは単に才能に溢れた、というだけのものではなく、感情を最大限に表現し得る技術を有した稀有なものであった」と評価、新しいアルバムの為にオリジナル曲を書くことを強くすすめた。その結果として生まれたアルバムが2016年にニューヨークで録音された「Inspiring Love」である。10曲のオリジナル曲で構成されるこのアルバムには、アレックス・シピアギン、ジャンルカ・レンツィ、ジーン・ジャクソンといった錚々たるミュージシャンが参加、同年10月に発売されると、彼女の評価は一段と高まり、ヨーロッパを中心にその存在は多くのファンに知られつつある。2017年11月にリリースされる予定の最新アルバム「A CONTRETEMPS」には、ミラバッシの盟友、TOKUがスペシャル・ゲストで参加している。



ジャンルカ・レンツィ Gianluca RENZI — Bass

1975年生まれ。イタリアの音楽院でクラシック演奏、ジャズ演奏、作曲、編曲の学位を取得すると共に、マーク・ジョンソン、ミロスラフ・ヴィトウス、パレ・ダニエルソン、ジョン・パティトゥッチらにベースを師事した。多くの国際的なミュージシャンとの共演を重ねる傍ら、自己のセクステット、オーケストラを率いて活躍。30を越えるアルバムの録音に参加、共演したミュージシャンはステイーヴ・グロスマン、ジョバンニ・ミラバッシ、デヴィッド・フュージンスキー、エンリコ・ピエラマンツィなど多岐にわたる。また、自己のリーダー・アルバムも制作、2005年制作のアルバムはイタリアの「ムジカ・ジャズ」誌の年間最優秀アルバムに選出された。また、06年にはイタリア・ジャズ界の最高名誉でもある「ジャンゴ・ラインハルト賞」を受賞した。08年、ニューヨークに活動の拠点を移し、活躍の場を、ヨーロッパはもとより、アメリカ、アジアにも広げている。演奏活動と共に、ローマにある「セントルイス・ミュージック・センター」で後進の指導にあたるなど、教育者としても高く評価される存在である。現在は、ジョバンニ・ミラバッシ・トリオの一員として、また、「ジャンルカ・レンツィ・オールスター・オーケストラ」のリーダーとして活躍している。



代官山ヒルサイドプラザホール

東京都渋谷区猿樂町29-10 ヒルサイドテラス (東急東横線代官山駅から徒歩3分)